

第一回神奈川県支部 俳句大会成績

日時 令和五年五月三十日

会場 ひらしん平塚文化芸術ホール

応募句

大会賞

羽抜鳥のつぴきならぬときに飛ぶ

横浜市 多田 学友

一生は一笑に似て葱の花

川崎市 山崎 杏

牛蛙水に皺寄せ鳴きにけり

茅ヶ崎市 廣崎 龍哉

秀逸

清明や木より仏を彫り起こし

横浜市 原田 紫野

初燕ついと市民課は一階

今治市 山本名水子

青空は富士の玉座や風光る

横浜市 木村 晴美

卒業の制服のまま駅ピアノ

茅ヶ崎市 大森 春子

旋盤の鉄屑の青寒波来る

横浜市 相 道生

先生の胸がゴールの運動会

横浜市 渋谷乃里子

樞や兄に時どき父が居る

相模原市 山中 洋子

当日句

岩田由美選

特選

黒南風や捨て馬鈴薯にあまたの芽

中根 美保

緑蔭へ這ひ這ひの子を連れ戻す

中村 洋子

商店街を神馬の蹄夏まつり

古瀬村 都

入選

ソーダ水昭和歌謡のはなしなど

関戸わよこ

末席は涼し独りはなほ涼し

加藤 房子

捨て置きし草立ち上がる梅雨晴間

野田まち子

噴水のちぎれつつ風ゆたかなり

太田 利明

日めくりは逝きし日のまま花空木

小堀公美子

道場の竹刀の音や夏に入る

阿部恵美子

夏燕千石河岸に声落とす

二宮 英子

憂きときも楽しきときも籐寝椅子

今村 千年

泡盛や海ゆつくりと暮れる島

大平 雅芳

ふたりなら笑ひとばせる缶ビール

岡根 尚美

泰山木咲いて明るき父の部屋

山口 由美

丹沢の山々雲をのせて梅雨

吉野あかり

古賀雪江選

特選

丹沢の山々雲をのせて梅雨

吉野あかり

若竹の大人びて来し節目かな

片倉 年子

蘭鑄の水引きずつて向き変へる

須藤 昌義

入選

はきなるる靴の歩巾や麦の秋

増井 智子

湯の宿の闇せまりきて河鹿笛

石井理恵子

一湾のどこも正面五月富士

中園 衣子

噴水のちぎれつつ風ゆたかなり

太田 利明

保育所に迎へまだ来ぬ蚊喰鳥

大坪 正美

七夕を待つ街角の腕まくり

田端 慎司

山影の碧き湖面や花胡桃

瀬戸 松子

ソーダ水昭和歌謡のはなしなど

関戸わよこ

一線を画す黒潮花海桐

岩橋 恭子

夕風旨しメタセコイアの新樹

岩田 和子

立ち上げのいきほひ雲の峰もまた

土生 依子

捨て置きし草立ち上る梅雨晴間

野田まち子

西山睦選

特選

日の傾ぐまでの時間や鴨涼し

萩谷まち子

時計草我が放課後の始まりぬ

宮崎 清美

山百合を加へ百花の競ふべし

柳澤 宗正

入選

桜桃忌水面を走る石ひとつ

清水しずか

立像傾ぎ青鷺となる大翼

中丸 涼

立ち上げのいきほひ雲の峰もまた

土生 依子

花菖蒲細身の舟の通りけり

山下由理子

やませ来と大き目玉の告げにくる

太田 土男

厄介な家捨てて来しなめくじら

石川 笙児

膝小僧のあたりが伸びて卒業す

水谷由美子

氷室出で正しく稜をそろへをり

木村 晴美

石切場けふは休業ほととぎす

三浦 郁

商店街を神馬の蹄夏まつり

古瀬村 都

振り遅れし吾子の網にも目高かな

八木 貞子

七夕を待つ街角の腕まくり

田端 慎司

堀本裕樹選

特選

蘭鑄の水引きずつて向き変へる

須藤 昌義

立ち上げのいきほひ雲の峰もまた

土生 依子

白靴の横浜を知り尽くしけり

栗林 明弘

入選

釣忍母の匂ひも薄れゆく

井上 好子

さくらんぼ食べたい人は手をあげて

市本 益子

息継のとても上手な目白かな

梅津 大八

若竹の大人びて来し節目かな

片倉 年子

緑青の濡れてあざやか走り梅雨

佐藤 嘉洋

振花の正面知らず咲きにけり

菅原 健一

万緑へ貫木放つ佳き日かな

種田 千代

緑蔭へ這ひ這ひの子を連れ戻す

中村 洋子

徒競走めく退場や若葉風

北本 佳子

でで虫やかなしきときの国訛

浅木 ノエ

振り遅れし吾子の網にも目高かな

八木 貞子

両隣本読む人や風薫る

塙 昌子